

# 2024年3月期 第1四半期 決算説明会資料

株式会社サニックス  
2023年8月9日

## 目次

- |                        |      |
|------------------------|------|
| 1. 2024年3月期 第1四半期 決算概況 | P.3  |
| 2. 2024年3月期 通期業績見通し    | P.20 |
| 3. スタンダード市場選択申請について    | P.28 |
| 4. 補足資料（事業構造）          | P.31 |

### <注意事項>

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

# 2024年3月期 第1四半期 連結決算概況

# 2024年3月期 第1四半期 連結決算概況

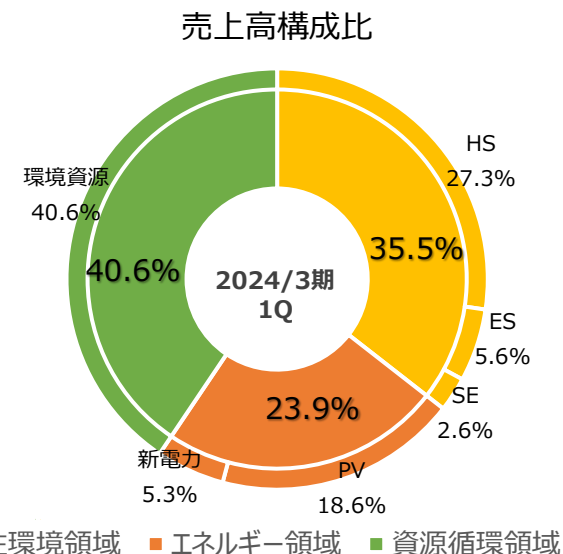
## 前年同期比は減収・減益であるが、計画を上回る利益水準で推移

- 新電力部門において、前期より事業構造の転換を進め、売上規模は前年同期に比べて半分程度で推移
- 環境資源開発部門において、苫小牧発電所の売電契約単価が4月より改定されたことにより売上・利益水準アップ
- 環境資源開発部門において、苫小牧発電所における法定点検を計画通り実施

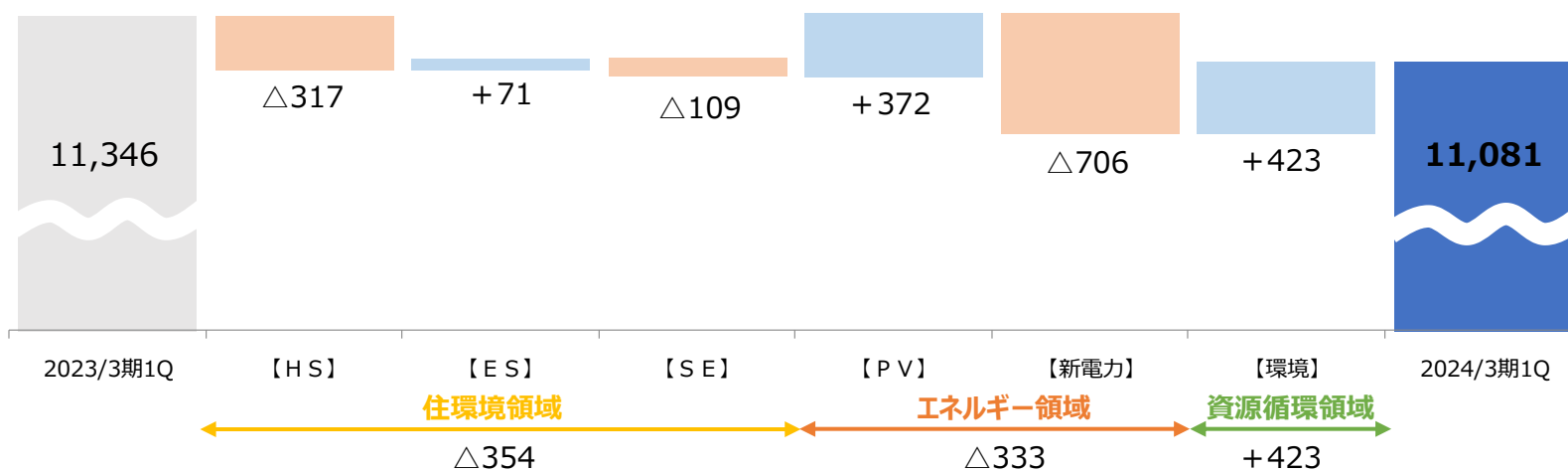
単位:百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	11,346	<b>11,081</b>	11,550	97.7%	95.9%
<b>売上総利益</b> (売上高売上総利益率)	4,080 36.0%	<b>3,757</b> <b>33.9%</b>	3,785 32.8%	92.1%	99.3%
<b>営業利益</b> (売上高営業利益率)	341 3.0%	<b>154</b> <b>1.4%</b>	93 0.8%	45.2%	165.6%
<b>経常利益</b> (売上高経常利益率)	270 2.4%	<b>73</b> <b>0.7%</b>	38 0.3%	27.1%	190.1%
<b>親会社株主に帰属 する四半期純利益</b> (売上高四半期純利益率)	174 1.5%	<b>63</b> <b>0.6%</b>	36 0.3%	36.4%	172.7%

# 2024年3月期 第1四半期 売上高

単位:百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	11,346	<b>11,081</b>	11,550	97.7%	95.9%
住環境領域	4,293	<b>3,938</b>	4,377	91.7%	90.0%
エネルギー領域	2,981	<b>2,647</b>	2,768	88.8%	95.6%
資源循環領域	4,071	<b>4,495</b>	4,403	110.4%	102.1%



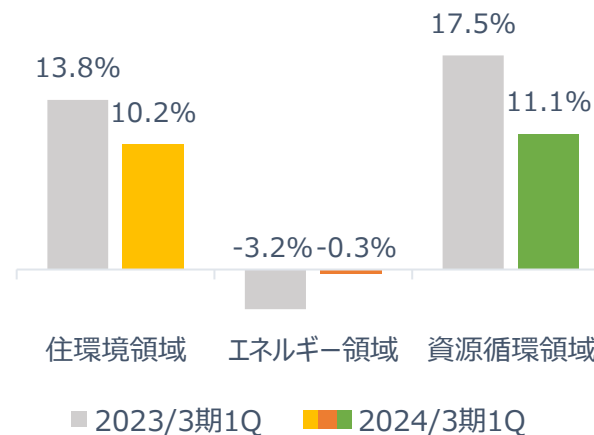
## ■ 前年同期比較



# 2024年3月期 第1四半期 営業利益

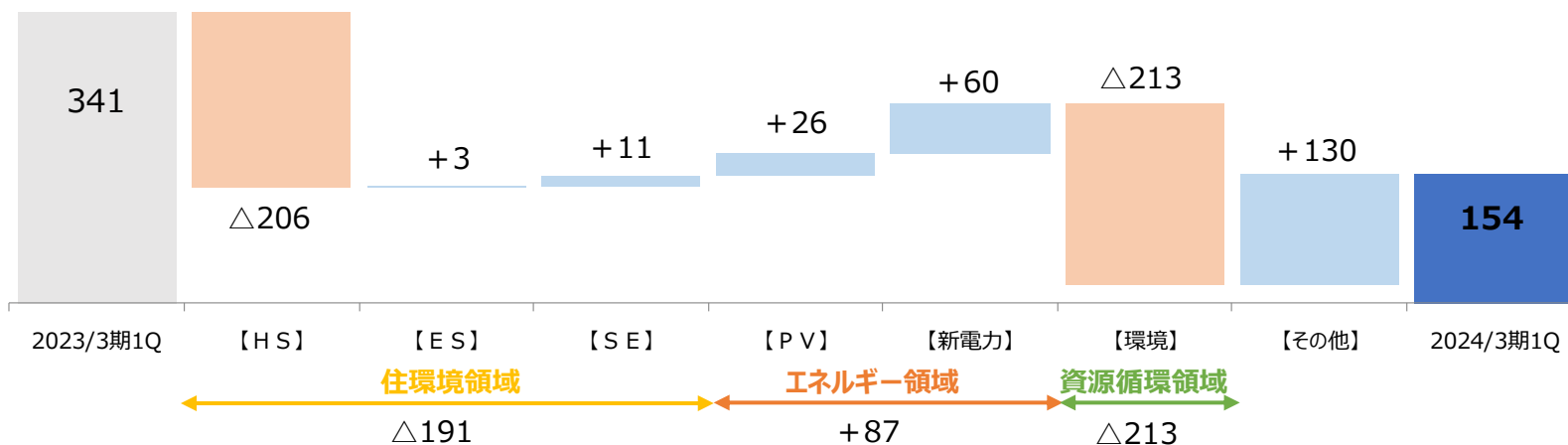
単位:百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>営業利益</b>	341	<b>154</b>	93	45.2%	165.6%
住環境領域	593	<b>402</b>	680	67.7%	59.1%
エネルギー領域	△ 96	△ <b>9</b>	△ 55	-	-
資源循環領域	710	<b>497</b>	232	69.9%	213.6%
配賦不能	△ 866	△ <b>735</b>	△ 764	-	-

営業利益率



## ■ 前年同期比較

【単位:百万円】



# 【住環境領域】



## 住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

### HS部門

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

### ES部門

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

### SE部門

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

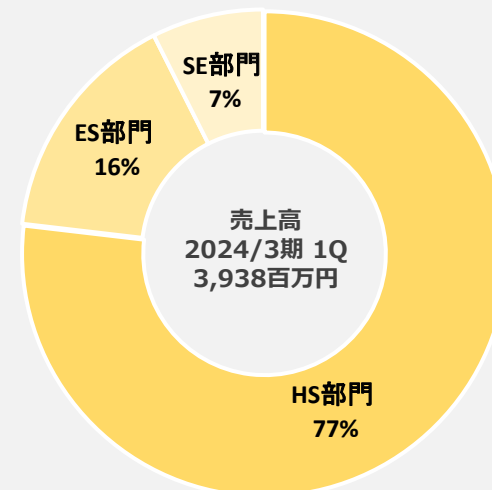


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

### 住環境領域 売上高構成比

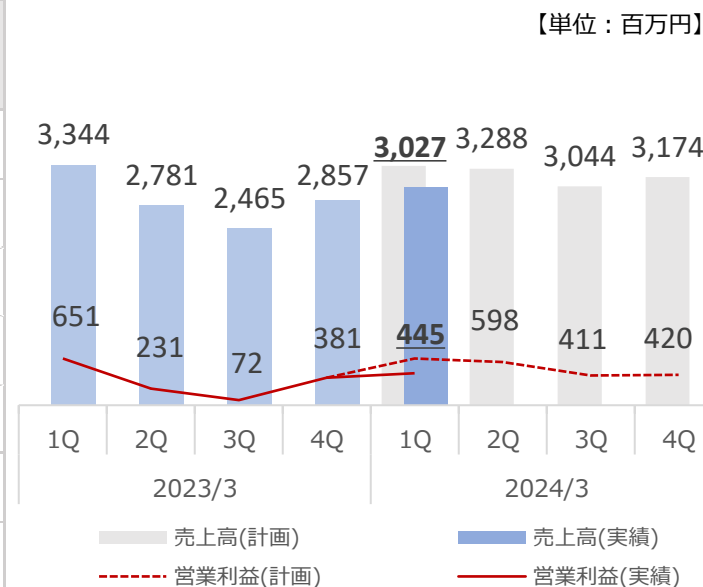


# 【住環境領域】

## 【HS事業部門 概況（前年同期比較）】

- 新規営業活動強化による新規顧客契約が増加し、「白蟻防除施工」が堅調に推移一方で、主に既存顧客を対象とした「床下・天井裏換気システム」や「基礎補修・家屋補強工事」が減少
- 販管コストは減少したものの、減収の影響により減益

単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	3,344	<b>3,027</b>	3,329	90.5%	90.9%
白蟻防除施工	1,115	<b>1,208</b>	1,154	108.3%	104.7%
床下・天井裏換気システム	821	<b>712</b>	832	86.7%	85.5%
基礎補修・家屋補強工事	486	<b>405</b>	492	83.3%	82.3%
その他	920	<b>701</b>	850	76.2%	82.5%
<b>売上総利益</b>	2,126	<b>1,889</b>	2,101	88.9%	89.9%
<b>営業利益</b>	651	<b>445</b>	651	68.3%	68.4%



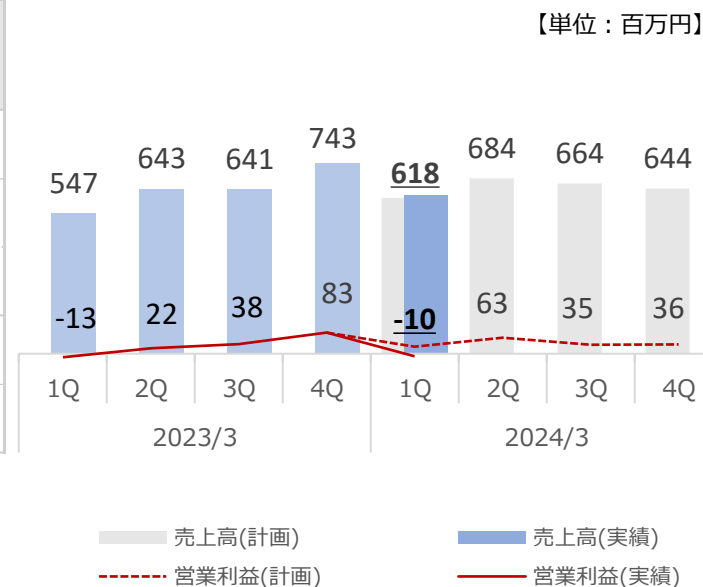


# 【住環境領域】

## 【E S事業部門 概況（前年同期比較）】

- 提携先との関係強化に加え、積極的な営業展開により、「建物給排水補修施工」及び「建物防水塗装補修施工」が増加
- 増収となったものの、外注工事を必要とする売上が増加したことにより、営業利益は前年同期並みにて推移

単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	547	<b>618</b>	608	113.1%	101.8%
防錆機器取付施工	223	<b>218</b>	290	98.0%	75.4%
その他	324	<b>400</b>	318	123.4%	125.8%
<b>売上総利益</b>	275	<b>290</b>	341	105.6%	85.2%
<b>営業利益</b>	△ 13	△ <b>10</b>	28	-	-

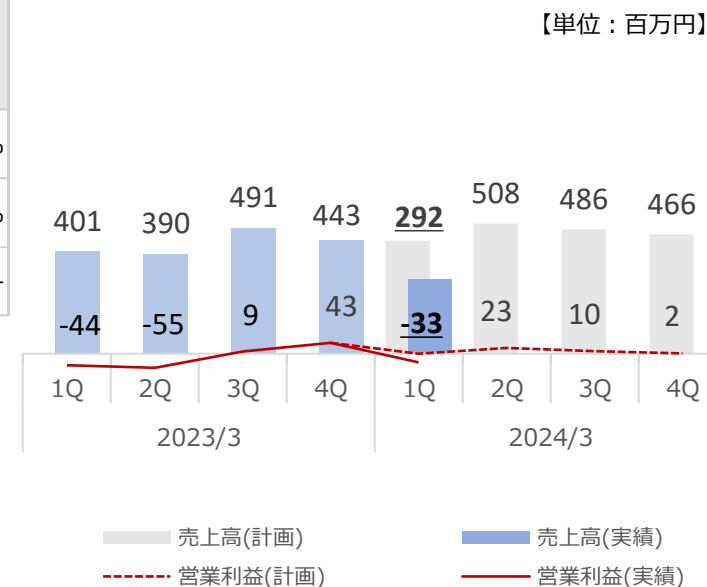


# 【住環境領域】

## 【S E 事業部門 概況（前年同期比較）】

- 前期に事業部を立ち上げ、戸建て住宅向け太陽光発電システム・蓄電池等の販売に注力
- 営業効率の向上のため、業務提携先の開拓に人員を割いたことにより、一時的に売上水準が低下

単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	401	<b>292</b>	440	72.9%	66.5%
売上総利益	136	<b>79</b>	146	58.2%	54.4%
営業利益	△ 44	△ <b>33</b>	1	-	-



# 【エネルギー領域】



## エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンニクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

### PV部門

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

#### 【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

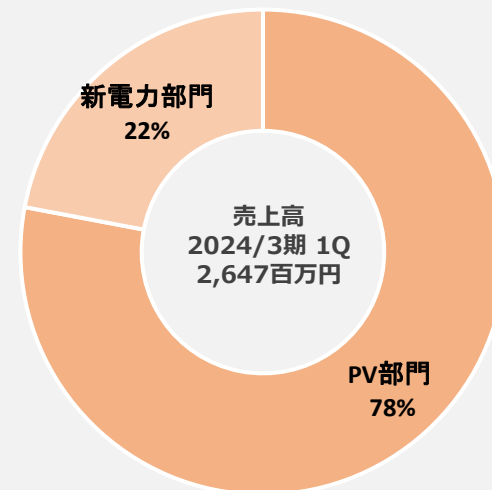
### 新電力部門

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

### エネルギー領域 売上高構成比

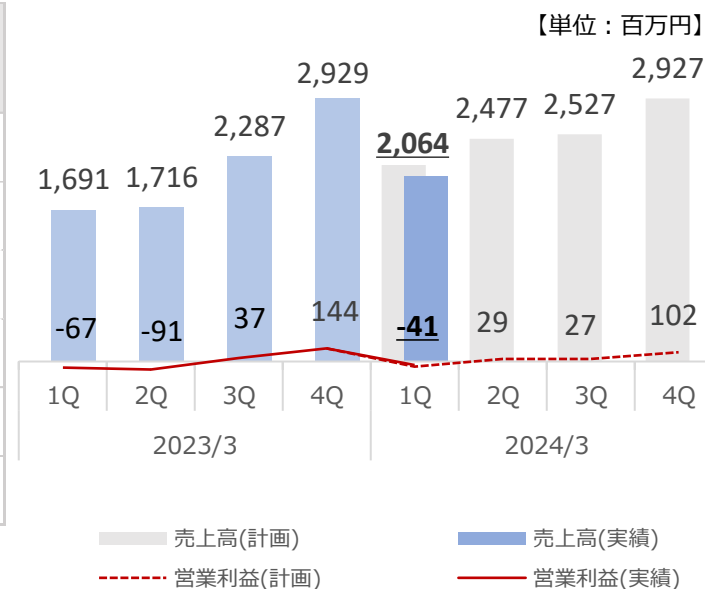


## 【エネルギー領域】

### 【PV事業部門 概況（前年同期比較）】

- 非FIT電源開発、法人向け自家消費型太陽光の施工を積極的に展開
- 既設太陽光発電所のメンテナンス売上は堅調に推移
- 為替影響等による材料コストの増加

単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	1,691	<b>2,064</b>	2,187	122.0%	94.4%
施工売上	1,628	<b>2,034</b>	2,133	124.9%	95.3%
卸売上	39	<b>7</b>	30	18.2%	24.0%
その他	23	<b>22</b>	23	95.8%	95.8%
<b>売上総利益</b>	353	<b>437</b>	436	123.8%	100.2%
<b>営業利益</b>	△ 67	△ <b>41</b>	△ 57	-	-

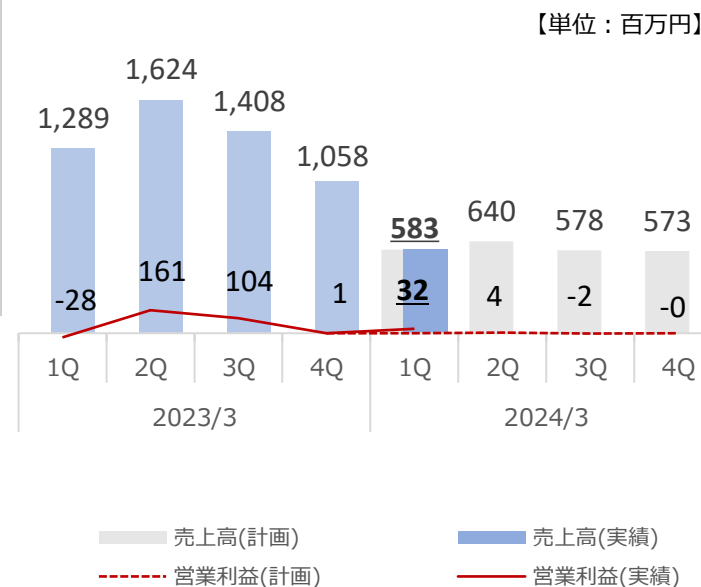


# 【エネルギー領域】

## 【新電力事業部門 概況（前年同期比較）】

- 前期より事業構造の転換を進め、売上規模は前年同期に比べて半分程度で推移
- 市場調達に頼らない事業構造に見直したことにより採算性が改善

単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	1,289	<b>583</b>	581	45.2%	100.3%
売上総利益	26	<b>62</b>	38	235.6%	162.9%
営業利益	△ 28	<b>32</b>	1	-	-



# 【資源循環領域】



## 資源循環領域

### 資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サンニクスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

#### 廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

#### 資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発電熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



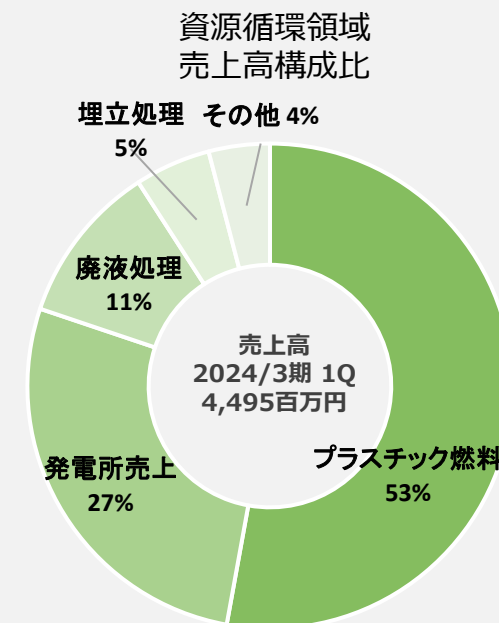
最終処分場

#### 廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場

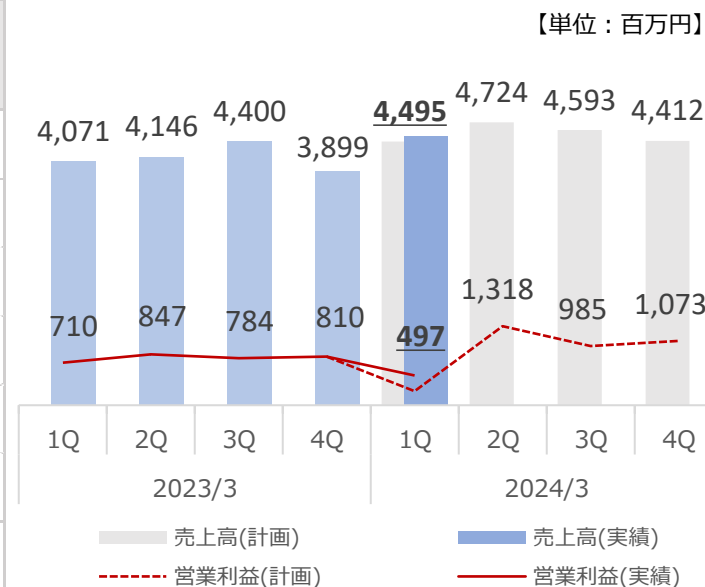


## 【資源循環領域】

### 【環境資源開発事業部門 概況（前年同期比較）】

- 苫小牧発電所の売電契約単価が4月より改定されたことにより売上・利益水準アップ
- 苫小牧発電所における法定点検を計画通り実施(2023年3月中旬から4月末)

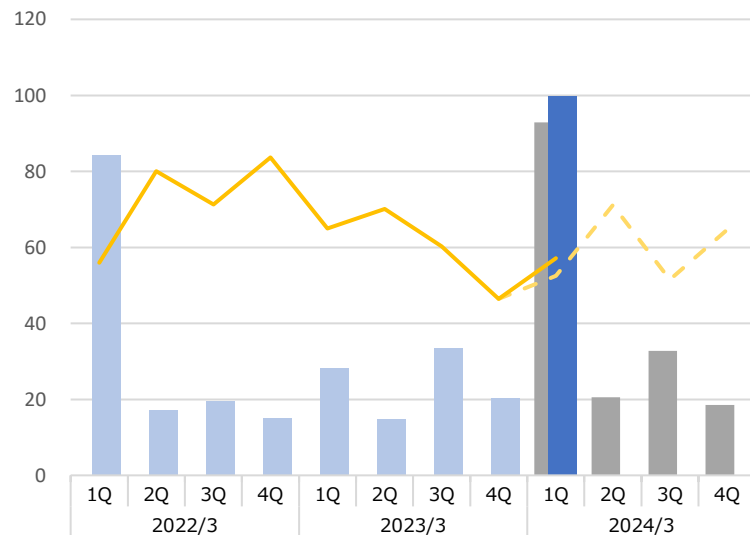
単位：百万円	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 計画	前年同期比	計画比
<b>売上高</b>	4,071	<b>4,495</b>	4,403	110.4%	102.1%
プラスチック燃料	2,438	<b>2,376</b>	2,502	97.5%	95.0%
発電所売上	753	<b>1,227</b>	1,076	162.9%	114.1%
廃液処理	511	<b>481</b>	516	94.2%	93.1%
埋立処理	251	<b>227</b>	183	90.5%	123.6%
その他	117	<b>183</b>	124	155.5%	147.1%
<b>売上総利益</b>	1,161	<b>998</b>	721	85.9%	138.3%
<b>営業利益</b>	710	<b>497</b>	232	69.9%	213.6%



# 環境資源開発部門の各種推移

## 苫小牧発電所の稼働状況

総発電量(GWh)



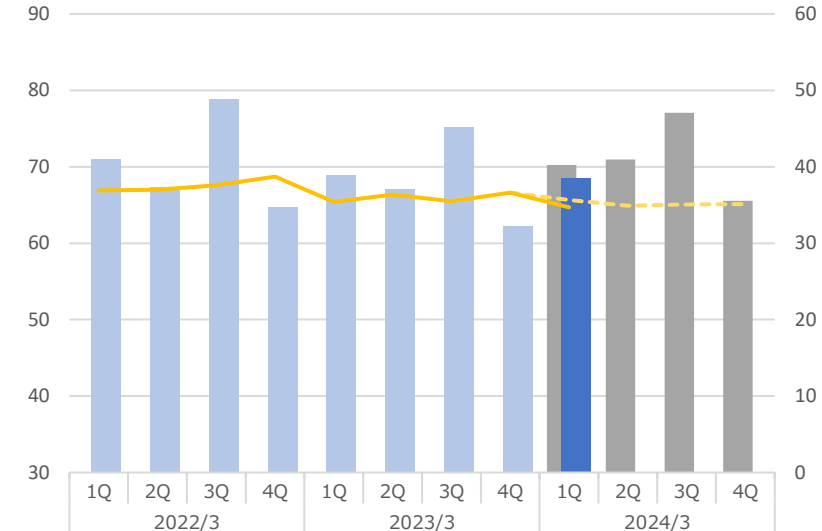
法定 点検	ボイラー	○							○			
	タービン								○			
定期点検			○		○		○					○

■ 環境資源修繕費(計画)    ■ 環境資源修繕費(実績)  
- - - 総発電量(計画)    — 総発電量(実績)

## 廃プラスチックの受入状況

受入(1,000t)

処理単価 (千円/t)



■ 廃プラ受入量(計画)    ■ 廃プラ受入量(実績)  
- - - 処理単価(計画)    — 処理単価(実績)

※処理単価 = プラスチック燃料売上高 ÷ 廃プラ受入量

- 2024年3月期 法定点検：2023年3月中旬から4月末 実施  
 ※法定点検 2年に1度実施 (タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと)



## 自己資本比率が18.3%となり、前期末に対して+0.3%改善

単位:百万円	2023/3期	2024/3期	前 期	
	期 末	1Q 実績	差異	前期比
流動資産	13,683	<b>12,850</b>	△ 833	93.9%
固定資産	19,902	<b>20,791</b>	888	104.5%
<b>資産合計</b>	33,586	<b>33,642</b>	55	100.2%
流動負債	16,382	<b>16,509</b>	126	100.8%
固定負債	11,135	<b>10,966</b>	△ 169	98.5%
<b>負債合計</b>	27,518	<b>27,475</b>	△ 42	99.8%
<b>純資産合計</b>	6,068	<b>6,166</b>	98	101.6%
<b>負債純資産合計</b>	33,586	<b>33,642</b>	55	100.2%

# 設備投資・減価償却費 実績

## 【主な設備投資】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 326百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 201百万円
- 廃液処理設備にかかる投資 : 54百万円

	2023/3期 1Q 実績	2024/3期 1Q 実績
単位：百万円		
住環境領域	15	<b>5</b>
エネルギー領域	—	<b>59</b>
資源循環領域	405	<b>584</b>
本社	27	<b>62</b>
<b>設備投資合計</b>	448	<b>711</b>
<b>減価償却費</b>	427	<b>390</b>

# セグメント別 人員・拠点数

	2023/3期 期末		2024/3期 1Q		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 部門	63	853	<b>63</b>	<b>863</b>	+10
E S 部門	12	160	<b>12</b>	<b>169</b>	+9
S E 部門	14	81	<b>14</b>	<b>83</b>	+2
P V 部門	35	254	<b>30</b>	<b>268</b>	+14
新電力部門	1	15	<b>1</b>	<b>12</b>	△3
環境資源開発部門	18	444	<b>18</b>	<b>462</b>	+18
本社	—	247	—	<b>244</b>	△3
<b>合 計</b>	—	<b>2,054</b>	—	<b>2,101</b>	<b>+47</b>

※上記拠点数には、同一拠点を含みます

※環境資源開発部門は、発電所 1 拠点、最終処分場 1 拠点含む

# 2024年3月期 通期業績見通し

# 2024年3月期 通期連結業績見通し

※業績見通しについては、2023/5/15発表より変更はありません

## 前期比 増収・増益 予想

- 売上高 47,965百万円 (前期比 103.6%)
- 営業利益 3,231百万円 (前期比 181.0%)

## 2024年3月期 連結業績見通しのポイント

	ポイント
住環境領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 提携先拡大に向けた法人営業体制の強化と、人員の採用・育成</li> <li>➤ 新型コロナウイルスによる対面での営業活動への制約がほぼ解消</li> </ul>
エネルギー領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ PV部門における法人・自治体向け自家消費型太陽光や、太陽光電源開発など、FITに依存しない事業モデルの本格化</li> <li>➤ 新電力部門において、事業構造の転換が完了（売上規模は前期の半分程度）</li> </ul>
資源循環領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 苫小牧発電所の売電契約単価の上昇</li> <li>➤ 法定点検実施による苫小牧発電所の稼働停止及び修繕コストの増加</li> </ul>

# 2024年3月期 通期連結業績見通し

単位：百万円	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
<b>売上高</b>	<b>23,873</b>	+1,223	<b>24,092</b>	+464	<b>47,965</b>	+1,688
<b>売上総利益</b> (売上高売上総利益率)	<b>8,746</b> <b>36.6%</b>	+677	<b>8,922</b> <b>37.0%</b>	+781	<b>17,668</b> <b>36.8%</b>	+1,459
<b>営業利益</b> (売上高営業利益率)	<b>1,452</b> <b>6.1%</b>	+706	<b>1,778</b> <b>7.4%</b>	+739	<b>3,231</b> <b>6.7%</b>	+1,446
<b>経常利益</b> (売上高経常利益率)	<b>1,336</b> <b>5.6%</b>	+724	<b>1,678</b> <b>7.0%</b>	+737	<b>3,014</b> <b>6.3%</b>	+1,462
<b>親会社株主に帰属 する当期純利益</b> (売上高当期純利益率)	<b>1,035</b> <b>4.3%</b>	+592	<b>1,460</b> <b>6.1%</b>	+570	<b>2,495</b> <b>5.2%</b>	+1,163

# 2024年3月期セグメント別 通期連結業績見通し

単位：百万円	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
<b>売上高</b>	<b>23,873</b>	+ 1,223	<b>24,092</b>	+ 464	<b>47,965</b>	+ 1,688
住環境領域	<b>8,858</b>	+ 750	<b>8,479</b>	+ 835	<b>17,337</b>	+ 1,586
エネルギー領域	<b>5,886</b>	△ 436	<b>6,607</b>	△ 1,077	<b>12,493</b>	△ 1,513
資源循環領域	<b>9,128</b>	+ 909	<b>9,005</b>	+ 705	<b>18,134</b>	+ 1,615
<b>営業利益</b>	<b>1,452</b>	+ 706	<b>1,778</b>	+ 739	<b>3,231</b>	+ 1,446
住環境領域	<b>1,365</b>	+ 572	<b>916</b>	+ 287	<b>2,281</b>	+ 860
エネルギー領域	<b>△ 21</b>	+ 4	<b>126</b>	△ 160	<b>104</b>	△ 156
資源循環領域	<b>1,551</b>	△ 7	<b>2,059</b>	+ 465	<b>3,611</b>	+ 457
配賦不能	<b>△ 1,442</b>	+ 136	<b>△ 1,323</b>	+ 147	<b>△ 2,766</b>	+ 284

# 2024年3月期セグメント別見通し 【住環境領域】

- H S 部門においては、地域に密着した新規開拓に加え、J A 等の業務提携先の拡大に向けた法人営業体制を強化することで、新規顧客チャネルを拡充。また、採用による人員増とあわせて、習熟度合いにあわせた各種研修の実施による人材育成にも注力し、生産性の向上を図る。
- E S 部門においては、管理会社などの提携先開拓や、既存提携先の密なフォロー、また展示会等の活用により、不動産オーナーとの接点を積極的に増やし、主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」の販路を拡大する。
- S E 部門においては、戸建住宅における脱炭素、省エネルギー化の政策的な後押しや、電気代削減・レジリエンス向上（災害対応）ニーズを捉え、太陽光発電システムや蓄電池の拡販を目指す。また、同時にハウビルダーや工務店等との提携も推進し、販売体制の強化を図る。

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売上高</b>	<b>8,858</b>		+ 750	<b>8,479</b>		+ 835	<b>17,337</b>		+ 1,586
H S 部門	<b>6,618</b>	74.7%	+ 492	<b>6,219</b>	73.3%	+ 895	<b>12,837</b>	74.0%	+ 1,387
E S 部門	<b>1,292</b>	14.6%	+ 101	<b>1,308</b>	15.4%	△ 76	<b>2,600</b>	15.0%	+ 24
S E 部門	<b>948</b>	10.7%	+ 156	<b>952</b>	11.2%	+ 17	<b>1,900</b>	11.0%	+ 173
<b>売上原価</b>	<b>3,678</b>	41.5%	+ 175	<b>3,804</b>	44.9%	+ 378	<b>7,482</b>	43.2%	+ 553
うち、材料費	<b>1,369</b>	15.5%	+ 253	<b>1,357</b>	16.0%	+ 125	<b>2,726</b>	15.7%	+ 379
うち、労務費	<b>1,227</b>	13.9%	+ 81	<b>1,312</b>	15.5%	+ 127	<b>2,540</b>	14.7%	+ 208
<b>売上総利益</b>	<b>5,179</b>	58.5%	+ 575	<b>4,674</b>	55.1%	+ 457	<b>9,854</b>	56.8%	+ 1,032
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>3,814</b>	43.1%	+ 2	<b>3,758</b>	44.3%	+ 169	<b>7,573</b>	43.7%	+ 171
うち、人件費	<b>2,388</b>	27.0%	+ 67	<b>2,378</b>	28.0%	+ 144	<b>4,766</b>	27.5%	+ 212
<b>営業利益</b>	<b>1,365</b>	15.4%	+ 572	<b>916</b>	10.8%	+ 287	<b>2,281</b>	13.2%	+ 860



# 2024年3月期セグメント別見通し【エネルギー領域】

- P V部門においては、非FITモデルに完全移行し、法人・自治体向けの自家消費型太陽光提案、エネルギー事業者との提携をベースとした再エネ（太陽光）電源開発、既設太陽光発電所におけるアフターメンテナンスを推進。また、全体的なコストダウンを進め、競争力の強化と採算性の向上を図る。
- 新電力部門においては、2022年3月期末から取り組んできた事業リスクを最小化するための事業構造転換を完了させ、前期の半分程度の事業規模となる見込み。収益性を確保した上で、将来的に太陽光発電の活用方法を広げるための電力供給モデルの構築等を見据え、電力の需給管理の高度化を目指す。

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売上高</b>	<b>5,886</b>		△ 436	<b>6,607</b>		△ 1,077	<b>12,493</b>		△ 1,513
P V 部門	<b>4,664</b>	79.2%	+ 1,256	<b>5,455</b>	82.6%	+ 237	<b>10,119</b>	81.0%	+ 1,494
新電力部門	<b>1,221</b>	20.8%	△ 1,692	<b>1,152</b>	17.4%	△ 1,314	<b>2,373</b>	19.0%	△ 3,007
<b>売上原価</b>	<b>4,848</b>	82.4%	△ 493	<b>5,395</b>	81.7%	△ 921	<b>10,244</b>	82.0%	△ 1,414
うち、材料費	<b>3,476</b>	59.1%	△ 727	<b>3,869</b>	58.6%	△ 1,059	<b>7,346</b>	58.8%	△ 1,786
うち、労務費	<b>356</b>	6.0%	△ 14	<b>379</b>	5.7%	+ 23	<b>735</b>	5.9%	+ 9
<b>売上総利益</b>	<b>1,037</b>	17.6%	+ 56	<b>1,211</b>	18.3%	△ 155	<b>2,249</b>	18.0%	△ 98
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>1,059</b>	18.0%	+ 52	<b>1,085</b>	16.4%	+ 5	<b>2,144</b>	17.2%	+ 57
うち、人件費	<b>519</b>	8.8%	+ 14	<b>537</b>	8.1%	+ 12	<b>1,056</b>	8.5%	+ 26
<b>営業利益</b>	<b>△ 21</b>	—	+ 4	<b>126</b>	1.9%	△ 160	<b>104</b>	0.8%	△ 156

# 2024年3月期セグメント別見通し 【資源循環領域】

- 環境資源開発部門においては、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇することから、「発電所売上」が大きく増収となる見込み。「プラスチック燃料売上」、「廃液処理売上」については、既存取引先の細かなフォローを基盤に新規取引先の開拓により、着実に受入量を拡大した上で廃棄物管理システムの活用等により継続的な取引につなげる。また、マテリアルリサイクルへの参入により、受入に適した廃棄物の幅を広げる。
- 費用面では、苫小牧発電所がボイラー・タービンの法定点検の年度にあたること、ならびに稼働開始から20年を経過していることから、メンテナンスコストが大幅に増加することを見込む。

単位：百万円	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
<b>売 上 高</b>	<b>9,128</b>		+ 909	<b>9,005</b>		+ 705	<b>18,134</b>		+ 1,615
プラスチック燃料	<b>4,979</b>	54.6%	+ 104	<b>5,005</b>	55.6%	+ 52	<b>9,985</b>	55.1%	+ 156
発電所売上	<b>2,495</b>	27.3%	+ 921	<b>2,341</b>	26.0%	+ 793	<b>4,837</b>	26.7%	+ 1,714
廃液処理	<b>1,043</b>	11.4%	+ 5	<b>1,077</b>	12.0%	+ 55	<b>2,120</b>	11.7%	+ 61
埋立処理	<b>360</b>	3.9%	△ 128	<b>328</b>	3.6%	△ 197	<b>688</b>	3.8%	△ 325
その他	<b>249</b>	2.7%	+ 7	<b>252</b>	2.8%	+ 1	<b>501</b>	2.8%	+ 8
<b>売上原価</b>	<b>6,600</b>	72.3%	+ 863	<b>5,969</b>	66.3%	+ 225	<b>12,570</b>	69.3%	+ 1,089
うち、労務費	<b>1,010</b>	11.1%	+ 78	<b>1,020</b>	11.3%	+ 48	<b>2,030</b>	11.2%	+ 126
<b>売上総利益</b>	<b>2,528</b>	27.7%	+ 46	<b>3,035</b>	33.7%	+ 479	<b>5,563</b>	30.7%	+ 525
<b>販売費・一般管理費</b>	<b>977</b>	10.7%	+ 53	<b>975</b>	10.8%	+ 14	<b>1,952</b>	10.8%	+ 68
うち、人件費	<b>604</b>	6.6%	+ 49	<b>603</b>	6.7%	+ 18	<b>1,207</b>	6.7%	+ 67
<b>営業利益</b>	<b>1,551</b>	17.0%	△ 7	<b>2,059</b>	22.9%	+ 465	<b>3,611</b>	19.9%	+ 457

# 重要経営指標

		2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	36.3%	27.9%	—	24.8%	35.0%
総資産経常利益率	ROA	8.2%	6.4%	—	4.5%	9.0%
自己資本比率		18.5%	24.5%	13.5%	18.0%	22.0%
投下資本利益率	ROIC	10.8%	11.2%	—	8.4%	14.0%

(単位：百万円)

	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画
設備投資	3,083	2,776	1,566	2,200~2,400
減価償却費	1,097	1,509	1,889	1,800

# 証券取引市場 スタンダード市場選択申請について

# プライム市場の上場維持基準への適合状況

移行基準	市場	プライム市場	当社の状況	適合状況
株主数		800人以上	<b>11,869人</b>	◎
流通株式数		20,000単位以上	<b>278,430単位</b>	◎
流通株式時価総額		100億円以上	<b>68億円</b>	×
流通株式比率		35%以上	<b>56.9%</b>	◎
1日平均売買代金		0.2億円	<b>0.5億円</b>	◎
純資産額		正	<b>60億円</b>	◎

- 当社は、2023年3月31日時点におけるプライム市場の上場維持基準において、「**流通株式時価総額**」のみ基準を下回る

- 2023年6月29日付で「上場維持基準への適合に向けた計画書」を作成・開示

# スタンダード市場の選択

## スタンダード市場選択理由

「流通株式時価総額」において当社の取り組みだけでは実現できない要素が含まれていることを踏まえ、株主の皆様が継続して当社株式を保有・売買できる環境を確保することが重要であるとともに、プライム市場の上場維持基準の充足のための短期的な目線ではなく、中長期的な目線で新たな成長戦略の実行を推進するために経営資源を集中的に振り向けることが、当社の持続的な成長や企業価値向上に資すると判断し、今回、「スタンダード市場」の選択申請を行うことといたします。

### ● スタンダード市場の上場維持基準への適合状況

移行基準	市場	スタンダード市場	当社の状況	適合状況
株主数		400人以上	<b>11,869人</b>	◎
流通株式数		2,000単位以上	<b>278,430単位</b>	◎
流通株式時価総額		10億円以上	<b>68億円</b>	◎
流通株式比率		25%以上	<b>56.9%</b>	◎
月平均売買高		10単位以上	<b>67,853単位</b>	◎
純資産額		正	<b>60億円</b>	◎

当社は、引き続き、高いガバナンス水準の維持や積極的な情報開示に努め、中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）の着実な遂行と長期ビジョン2030に向けた更なる飛躍に向け、**持続的な成長と企業価値の向上**に取り組んでまいります。

# 補足資料（事業構造）

## 企業理念 「次世代へ快適な環境を」

### エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』  
再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、  
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に

つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅  
流通市場形成

### 住環境領域

- HS
- ES
- SE

### 資源循環領域

- 環境資源

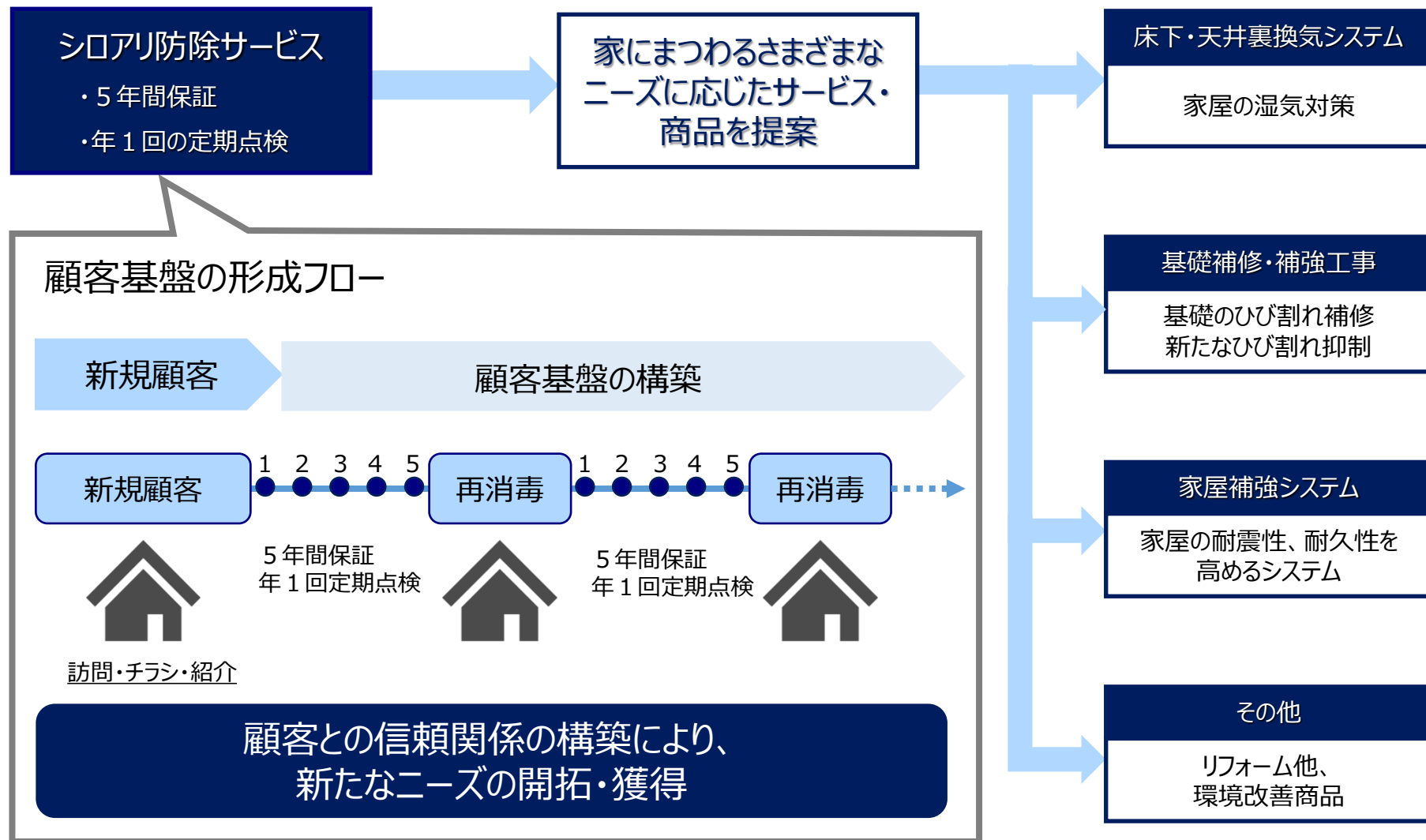
『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、  
プラスチック資源循環戦略



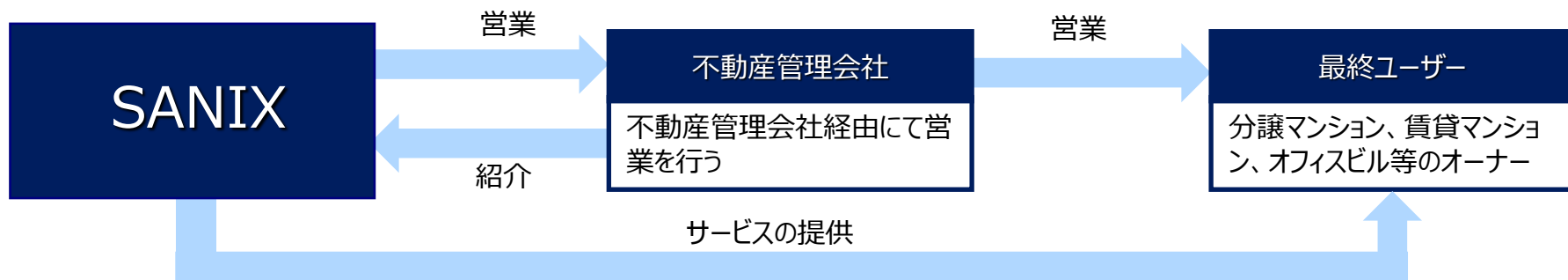
# HS事業部門 事業構造

## HS部門 事業構造

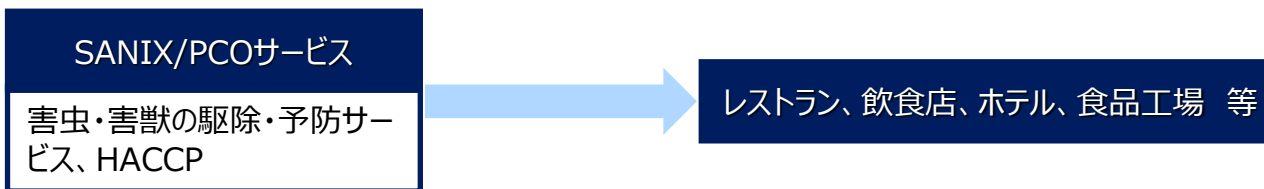
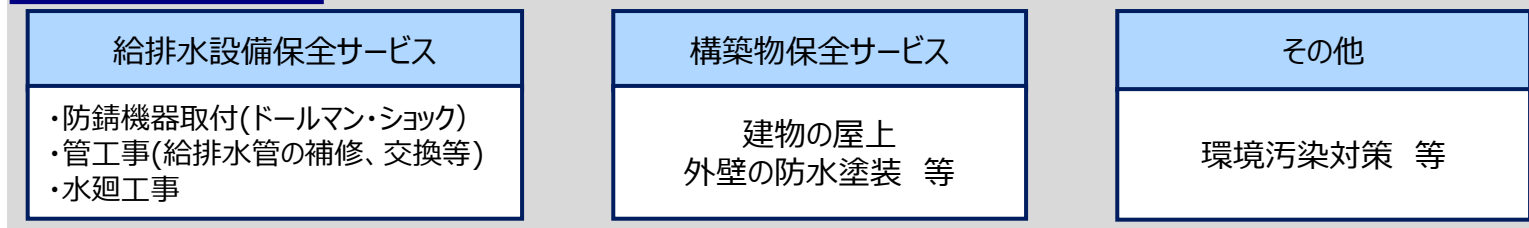


# ES事業部門 事業構造

## E S 部門 事業構造



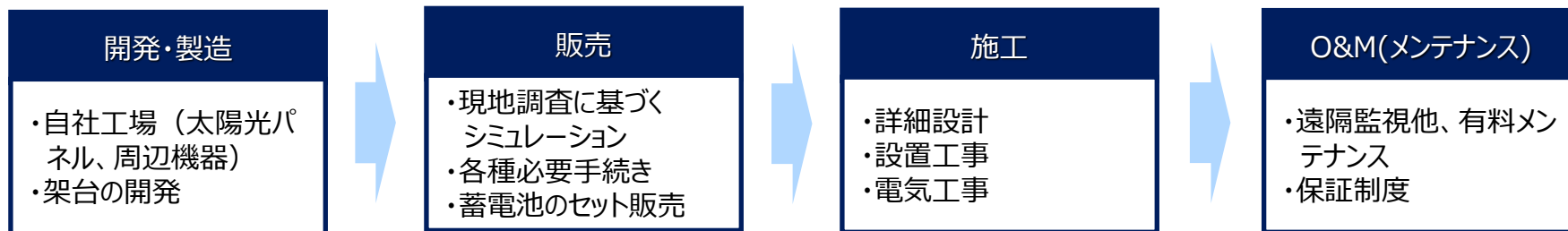
### 主なサービス・商品



# SE/PV事業部門 事業構造

## SE/PV部門 事業構造

製造・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



### 住宅向け（10kW未満） 主にSE事業部門

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

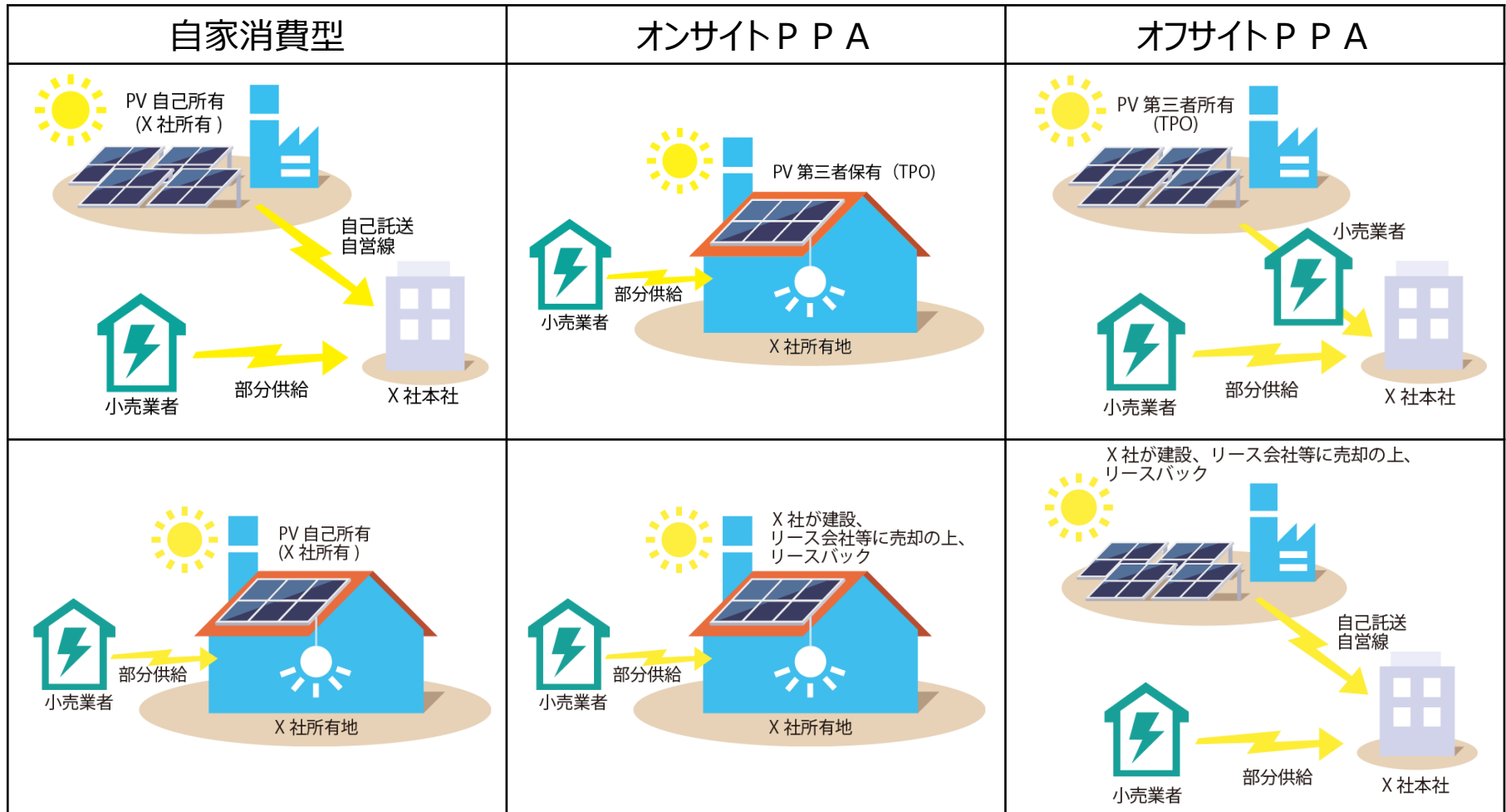
### 法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業部門

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化  
 更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

# 太陽光設備の導入・保有、および電力の供給方法の 多様化・高度化

電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、  
経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化

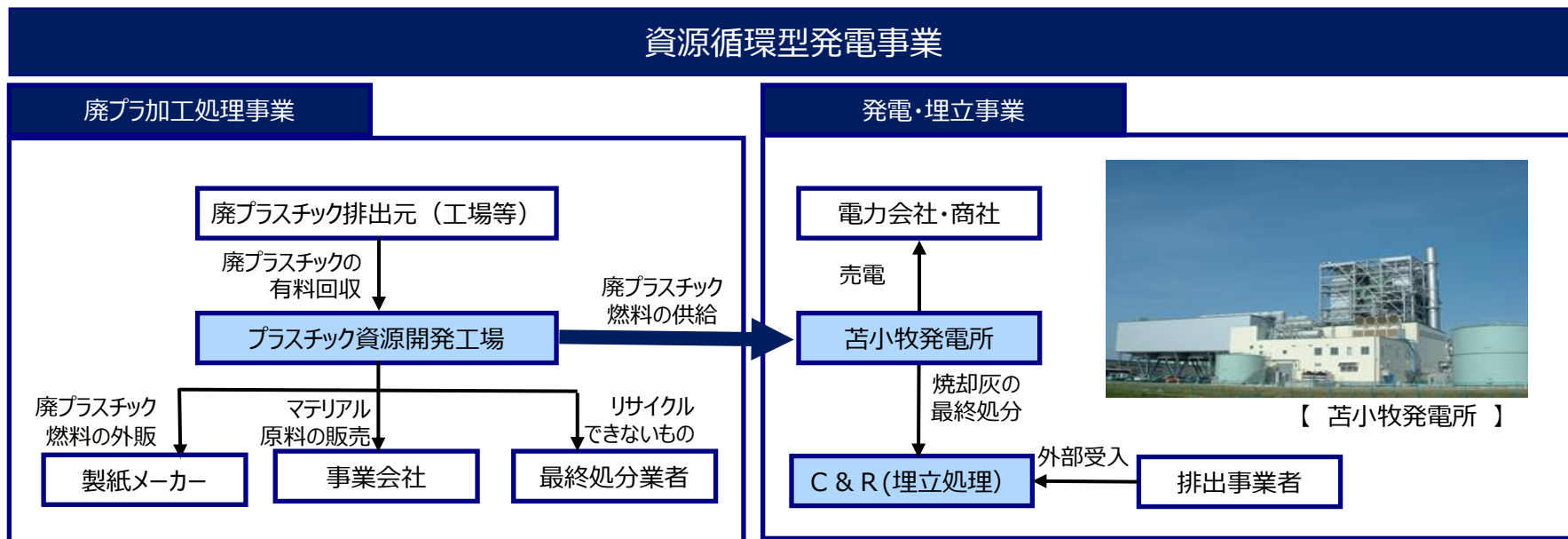


太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

# 環境資源開発事業部門 事業構造①

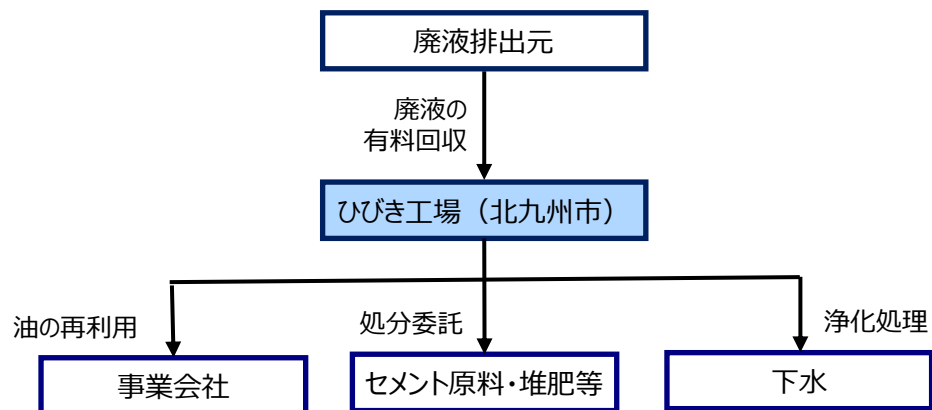
## 環境資源開発部門 事業構造

### 資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

## 廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

## 【免責事項】

- 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

次世代へ快適な環境を  
**SANIX**